



2016年7月1日/私立大学図書館協会京都支部

図書館と研究支援：
「市場動向からOA, そして評価指標までを俯瞰」
EBSCO営業課長代理 花田謙一

※補足文章はスライド下のメモ欄を参照

※当該資料について、複製や転載及び掲載等のご遠慮ください

学術情報市場を俯瞰

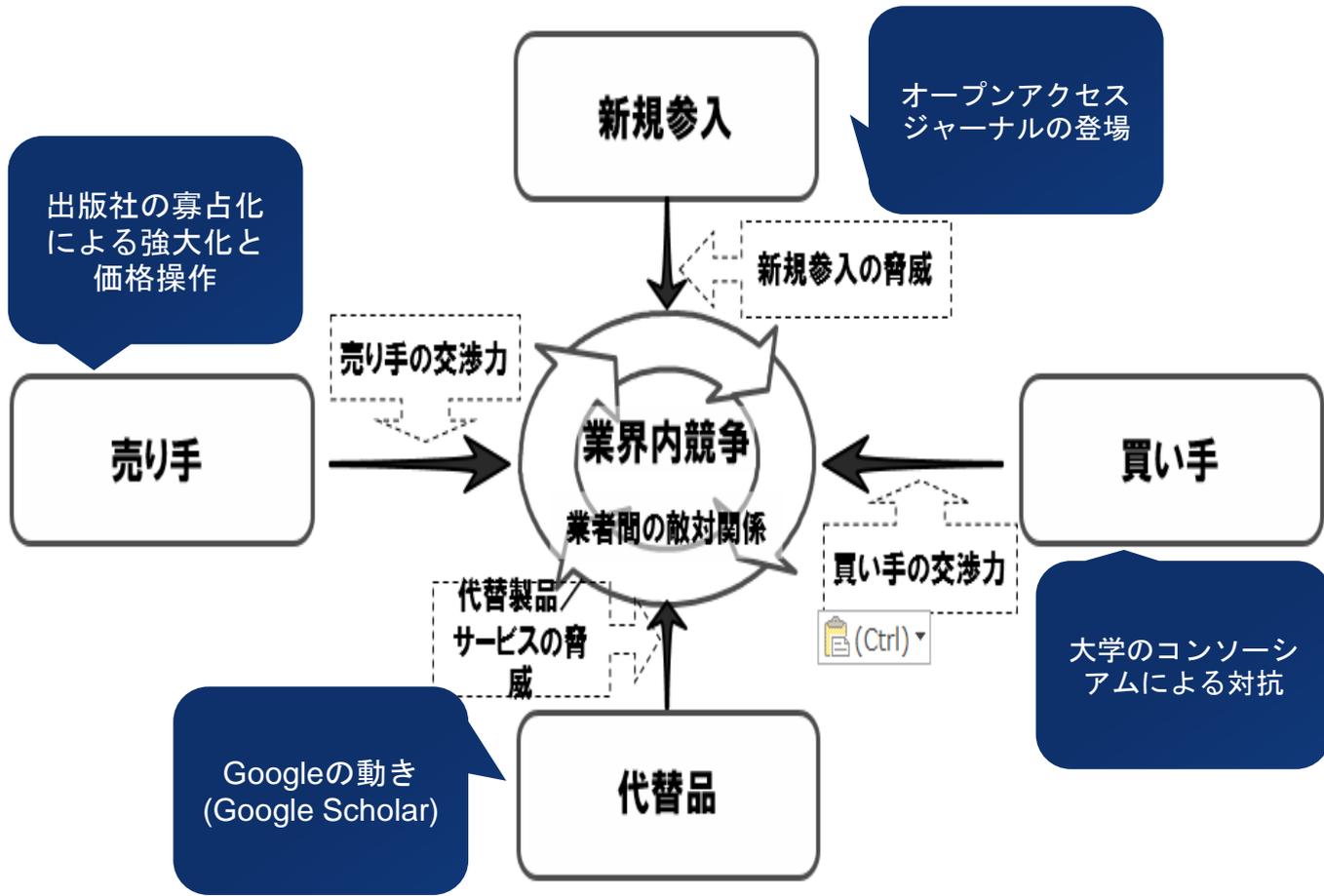
学術雑誌の危機

オープンアクセスジャーナル(OA)

新しいOAと軽量査読

新しい論文評価
(オルトメトリクス)

本日の内容
キーワードは「市場動向の俯瞰と新しい動き」

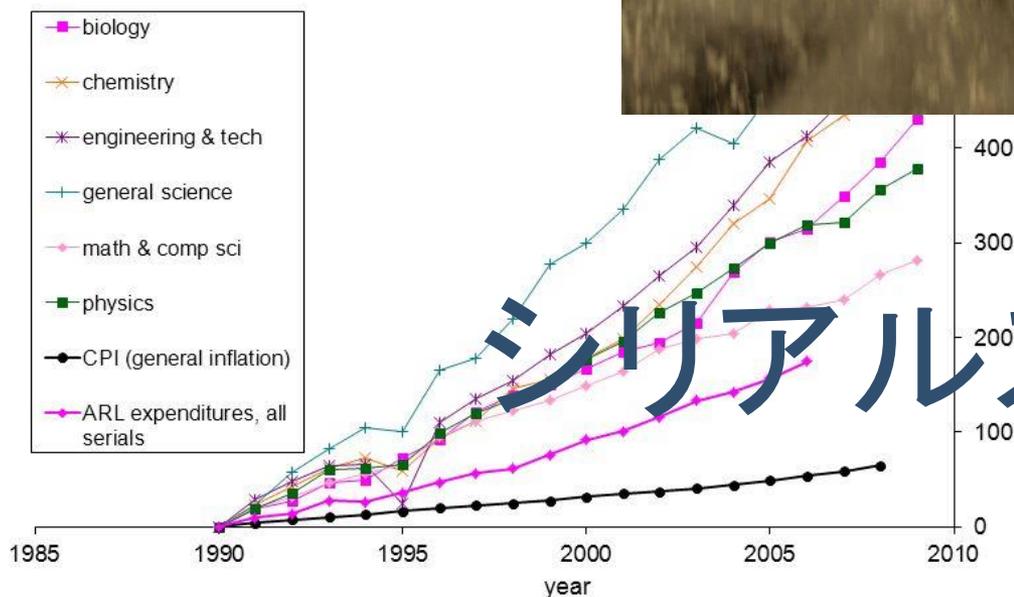


フレーム出典 : Synapse Consulting:
<http://cyber-synapse.com/dictionary/en-all/5forces-analysis.html>

業界の構造

ファイブフォース分析

- 雑誌と電子リソースの価格高騰
(価格の非弾力性)
- 高騰の要因はさまざま？
- 図書館資料費の限界



シリアルズ・クライシス

学術雑誌の危機

- **OA**（オープンアクセス・ジャーナル）とは？
- 登場した背景は？税金と**APC**（論文投稿料）
- 代表的なパッケージ
- ゴールドモデルとグリーンモデル
- 最近のトピック（**DOAJ**の質への転換）
- 出版社と**OA**は相容れぬ関係か？（ハイブリッド型）
- ハゲタカ出版社の問題や二重支払い問題

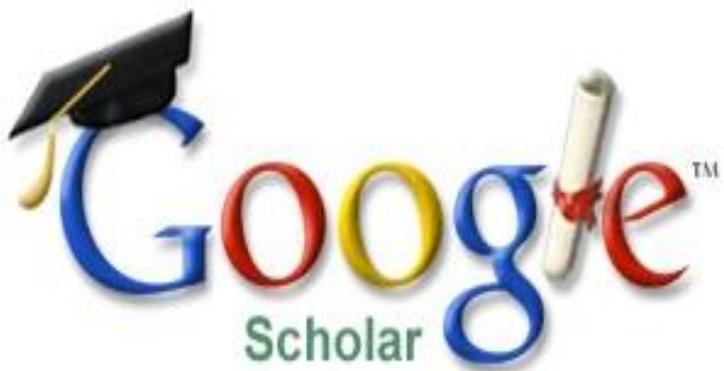


- オープンメガジャーナルとは？
- 登場した背景は？
- 代表的なパッケージ
- **(Plos One)**
- その論文評価スタイルは？
- (軽量査読の登場)



新しいOAの登場

オープンメガジャーナルの新しい動き



① **SEO**=検索エンジン最適化、つまり検索エンジンの一等地をいかに確保するか
企業では売りに上げに直結するから対策に注力。お金もかけている。

② 学術情報の世界も同じ。アカデミア以外の人達にどれだけ論文を読んでもらい、
評価されるか問われる時代。

(**Academia**, つまり一流の学術雑誌の掲載されるだけではない)

③ 参考文献を条件に課題を出すとする共通項が？

④ 上位かつフルテキストにその場でアクセスできるかは読まれるかの大きな分水嶺

⑤ 最近、出版社による **Google Scholar** での索引化の流れ (学術情報世界での
SEO?)

BIBFRAME などのウェブ上の情報とリンクしやすい新たなフォーマットで提供

⑥ 学術情報資源の **Google** であるディスカバリーサービスでのメタデータの重要性と
中国や 韓国の「見せるメタデータ」と国力

GoogleのSEO対策

代替品とどう向き合うか



- A. 2015年 京都大学のOA義務化
- B. 2016年 国の助成を受けた論文の原則公開と根拠データ（日本）
- C. 2016年 2025年までの研究成果の100%OA化（ドイツ）
- D. 2020年までに欧州全科学論文への無料アクセス達成を採択(EU)

最近の大きな動き

日本とドイツ、EU



国から研究費、論文を原則公開 ネット上で、根拠のデータも対象

2016年1月24日 05時00分



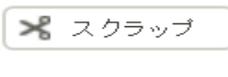
シェア
308



ツイート
[list](#)



ブックマーク
13



スクラップ



メール



印刷

紙面ビューアー | 面一覧

続きから読む

公的資金 を使った研究について、政府は学術論文やデータをネット上で原則公開させる方針を決めた。国内の科学技術関連予算は年間約4兆円に上るが、論文の多くは有料の商業誌に掲載され、自由に閲覧できない。成果を社会で広く共有し、研究の発展を促す狙い。

国内の大学や研究機関が関わる科学技術の論文数は年間7万本を超える。米国や英国で公的資金 を使った研究論文の公開義務化が広がっており、日本でも進める。22日に閣議決定した第5期科学技術基本計画(2016~20年度)の期間中に実施を目指す。

国の研究費を配分する科学技術振興機構や日本学術振興会が大学などに研究資金を出す際、論文の公開を条件にする方法などを検討している。研究者は、論文を無料で読める電子雑誌に投稿するか、有料の雑誌に出す場合は大学などが設ける専用サイトで、ほぼ同様の内容を

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館のサイトです。

ホーム

独ヘルムホルツ協会がオープンアクセス方針を発表 2025年までに研究成果の100%をOAにすることを目標に設定

Posted 2016年5月31日

2016年5月30日、ドイツのヘルムホルツ協会がオープンアクセス(OA)方針を発表しました。

ヘルムホルツ協会は18の研究機関から構成されるドイツ最大の研究組織で、構成員は38,000人以上、年間予算は40億ユーロ以上にのぼります。今回、発表されたOA方針では、所属研究者に対し、すべての査読論文について、著者最終稿もしくは出版者版をリポジトリに登録するよう求めています。その上で、出版者版がOAで利用できない論文については、自然科学分野の論文は出版後6カ月以内、人文・社会科学分野については12カ月以内に、リポジトリを通じて論文を公開するよう義務付けています。また、専門書についてもリポジトリへの登録・公開を義務付けており、その場合のエンバゴは自然科学分野では12カ月、人文・社会科学では24カ月とされています。

さらにヘルムホルツ協会のOA方針では今後のOA実現の数値目標とモニタリングの方法についても言及されており、2020年には前年に出版された研究成果の60%をOAとすることを目標に設定しています。以降、1年ごとに目標値は10%上がり、2025年には全ての研究成果をOAとすることを目標としています。

Helmholtz Association adopts open access policy(Helmholtz Association, 2016/5/30付け)

https://www.helmholtz.de/en/about_us/press_releases/artikel/artikeldetail/helmholtz_gemeinschaft_verabschiedet_open_access_richtlinie/

Open Access Policy of the Helmholtz Association, 2016

<http://oa.helmholtz.de/open-science-in-der-helmholtz-gemeinschaft/open-access-richtlinien/open-access-richtlinie-der-helmholtz-gemeinschaft-2016/open-access-policy-of-the-helmholtz-association-2016.html>

参考:

カレントアウェアネス・ポータルでは、2014年6月23日から9月26日まで利用者アンケートを実施しました。集計結果の概要を[こちら](#)に掲載しています。ご協力ありがとうございました！

東日本大震災 関連情報

「災害」に関する当サイトの記事

調査研究レポート「東日本大震災と図書館」

国立国会図書館 東日本大震災復興支援ページ

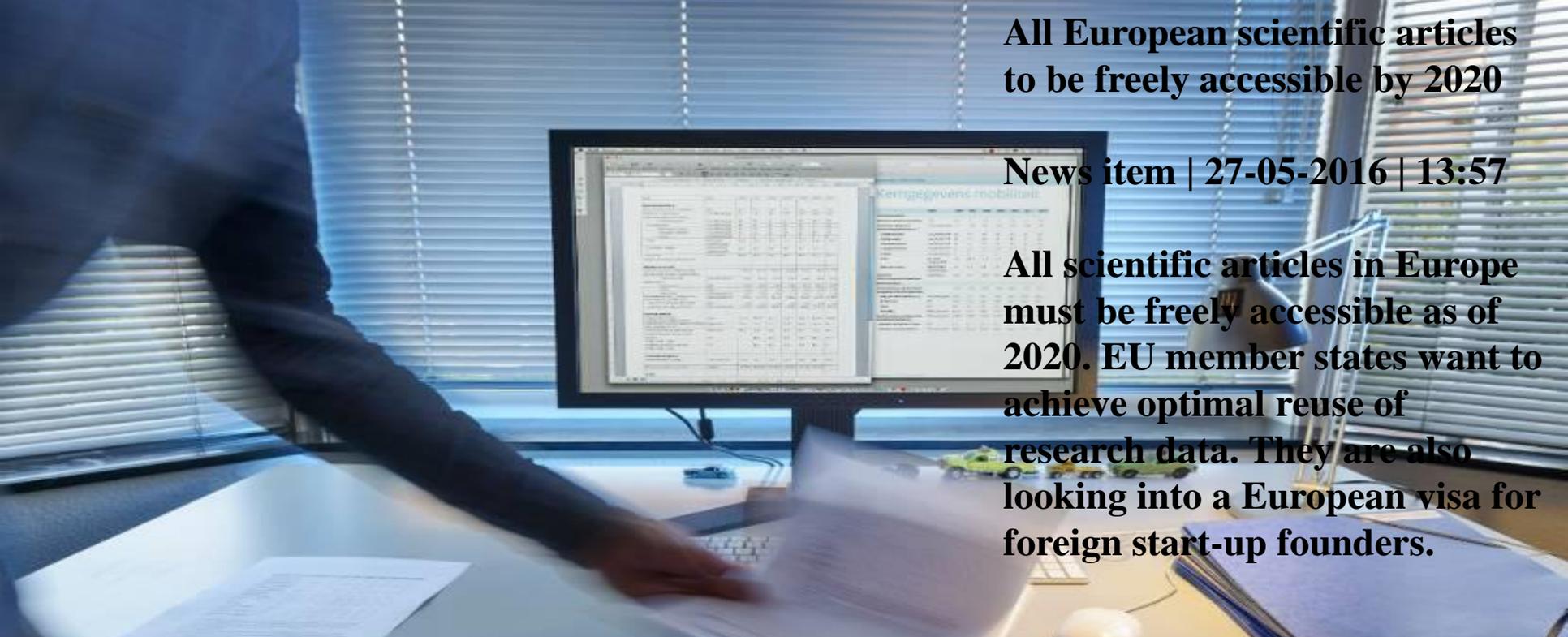
地震・災害 関連情報(レファレンス協同データベース)

各地の図書館等の被災情報等について(外部リンク)

saveMLAK

Twitterでの情報提供を行っています。

http://twitter.com/ca_tweet



**All European scientific articles
to be freely accessible by 2020**

News item | 27-05-2016 | 13:57

**All scientific articles in Europe
must be freely accessible as of
2020. EU member states want to
achieve optimal reuse of
research data. They are also
looking into a European visa for
foreign start-up founders.**

出典: The Netherlands EU Presidency 2016

<http://english.eu2016.nl/latest/news/2016/05/27/all-european-scientific-articles-to-be-freely-accessible-by-2020>

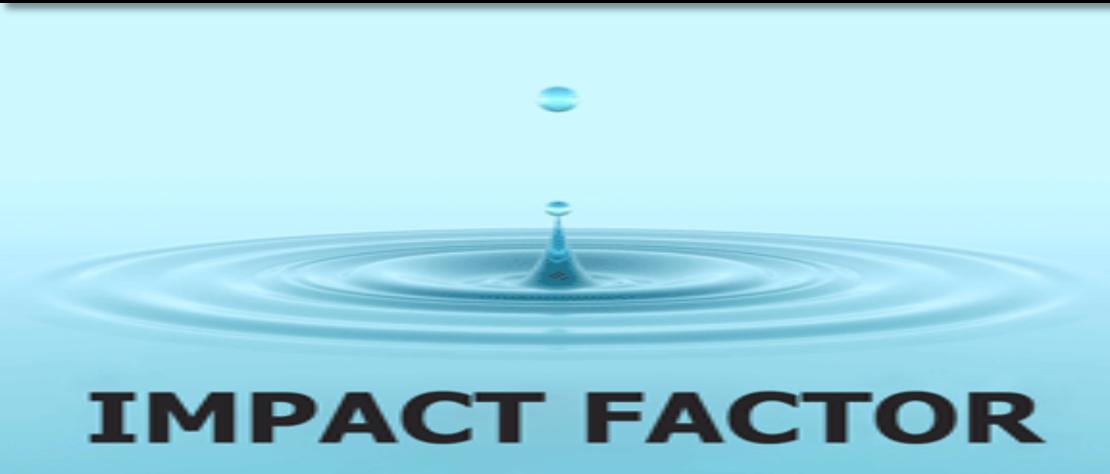
EU、2020年までに欧州全科学論文への無料アクセス達成を採択

2016年06月01日 科学技術振興機構の記事

欧州連合（EU）加盟国は5月27日、同日ブリュッセルで開催された「競争力委員会（Competitiveness Council）」会合において、2020年までに欧州の全科学論文の無料アクセスを目標とすることを採択した。

研究データについても、最適に利用可能でなければならないとし、達成するには、知的財産権あるいはプライバシーなど、十分な根拠がない限り、アクセス可能でなければならないとしている。また研究者の評価については、論文や被引用数のみではなく、研究の社会的インパクトも考慮すべきであることが示された。

- インパクトファクターとは？
- 登場した背景は？
- 代表的な製品 (SCOPUSとWeb of Science)
- その重要性
- その限界と課題 (単位の相違、即時性、社会的インパクト)



雑誌評価

伝統的な指標 インパクトファクター

- オルトメトリクス(代替指標)とは？
- アカデミアと社会的インパクトの区別 (科研と英国のHEFCs)
- 簡単なデモ
- 課題(人文社会系の評価と網羅性)
- 海外の状況



Score in context

Puts article in the top 5% of all articles ranked by attention

[show more...](#)



論文評価

代替指標であるオルトメトリクス

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館のサイトです。

[ホーム](#)

人文・社会科学分野におけるaltmetricsの可能性・課題・技術(記事紹介)

Posted 2016年6月10日

2016年8月に開催される第82回世界図書館情報会議(WLIC)・国際図書館連盟(IFLA)年次大会の資料として、フィンランドのヘルシンキ大学図書館のJohanna Lahikainen氏による“Altmetrics in Social Sciences and Humanities: Possibilities, Challenges, and Experiences”と題する記事が公開されています。

ヘルシンキ大学図書館が、EBSCO社の研究成果評価分析ツール“PlumX”を用いて2015年に実施したaltmetricsの試験結果の概要が述べられており、英語で執筆される医学・自然科学分野に対し、人文・社会科学分野の文献はフィンランド語・スウェーデン語といった現地の言語で執筆されるため、医学・自然科学分野ほどは評価ツールが効果的に機能しなかったことが述べられています。

そして、そのような分野に適したaltmetricsツールを作成することが重要であると、その解決策として、フィンランド語の雑誌へのDOIの付与、ORCIDの採用、2016年中に運営が開始される研究成果登録簿・データウェアハウスである“VIRTA”とAltmetrics社のaltmetricsデータの統合などが指摘されています。

Altmetrics in Social Sciences and Humanities: Possibilities, Challenges, and Experiences

<http://library.ifla.org/1356/>

<http://library.ifla.org/1356/1/136-lahikainen-en.pdf>

参考:

Plum Analytics社がEBSCO社の完全子会社に

Posted 2014年1月16日

<http://current.ull.es/node/25250>

カレントアウェアネス・ポータルでは、2014年6月23日から9月26日まで利用者アンケートを実施しました。集計結果の概要を[こちら](#)に掲載しています。ご協力ありがとうございました！

東日本大震災 関連情報

[「災害」に関する当サイトの記事](#)

[調査研究レポート「東日本大震災と図書館」](#)

[国立国会図書館 東日本大震災復興支援ページ](#)

[地震・災害 関連情報\(レファレンス協同データベース\)](#)

[各地の図書館等の被災情報等について\(外部リンク\)](#)

[saveMLAK](#)

Twitterでの情報提供を行っています。

http://twitter.com/ca_tweet

カレントアウェアネス・ポータルは、図書館界、図書館情報学に関する最新の情報をお知らせする、国立国会図書館のサイトです。

ホーム

2016年、大学・研究図書館のトレンド(記事紹介)

Posted 2016年6月2日

米国の大学・研究図書館協会 (ACRL) が刊行している "College & Research Libraries News" (C&RL News) の 2016年6月号に、2016年における大学・研究図書館のトレンドを紹介した記事 "2016 top trends in academic libraries" が掲載されています。

紹介されているトレンドは以下の通りです。

- Research data services (RDS)
- Data policies and data management plans
- Professional development for librarians providing RDS
- Digital scholarship
- Collection assessment trends
- ILS and content provider/fulfillment mergers
- Evidence of learning: Student success, learning analytics, credentialing
- Digital fluency in the Framework
- Critical information literacy in the Framework
- Altmetrics
- Emerging staff positions
- Open Educational Resources (OER)

ACRLの研究計画審査委員会 (Research Planning and Review Committee) が執筆したもので、同様の記事は隔年で掲載されています。

カレントアウェアネス・ポータルでは、2014年6月23日から9月26日まで利用者アンケートを実施しました。集計結果の概要を [こちら](#) に掲載しています。ご協力ありがとうございました！

東日本大震災 関連情報

「災害」に関する当サイトの記事

調査研究レポート「東日本大震災と図書館」

国立国会図書館 東日本大震災復興支援ページ

地震・災害 関連情報 (レファレンス協同データベース)

各地の図書館等の被災情報等について (外部リンク)

[saveMLAK](#)

Twitterでの情報提供を行っています。

http://twitter.com/ca_tweet

- 図書館がどう研究支援に関わっていくか？海外の動き
- NISOガイドラインからの知見
- SWOTを使っの図書館を取り巻く環境分析

図書館と研究支援

まとめ

EBSCO

Altmetrics Definitions and Use Cases

Foreword

About this Recommended Practice

Altmetrics are increasingly being used and discussed as an expansion of the tools available for measuring the scholarly impact of research in the knowledge environment. The NISO Alternative Assessment Metrics Project was begun in July 2013 with funding from the Alfred P. Sloan Foundation to address several areas of limitations and gaps that hinder the broader adoption of altmetrics. This document is one output from this project, intended to help organizations that wish to use altmetrics to effectively communicate about them with each other and with those outside the community. "Working Group A" extensively studied the altmetrics literature and other communications and discussed in depth various stakeholders' perspectives and requirements for these new evaluation measures. Additional working group outputs from this initiative in the areas of specific output types and use of persistent identifiers will be released soon for public comment. A draft Code of Conduct for data quality has been made available for public comment through March 31, 2016.

NISO Business Information Topic Committee

This recommended practice is part of the portfolio of the Business Information Topic Committee. At the time the Topic Committee approved this recommended practice for publication, the following individuals were committee members:

[to be added by NISO after approval]

Contents

Section 1: Introduction	1
1.1 Purpose and Scope	1
Section 2: A Definition of Altmetrics	2
2.1 What is Altmetrics?	2
2.2 Scholarly Impact and the Role of Altmetrics in Research Evaluation	2
Section 3: Main Use Cases	3
3.1 Stakeholder-driven Use Cases	3
3.1.1 Persona #1: Librarians	3
3.1.2 Persona #2: Research Administrators	4
3.1.3 Persona #3: Member of a Hiring Committee	4
3.1.4 Persona #4: Member of a Funding Agency	5
3.1.5 Persona #5: Academics/Researchers	5
3.1.6 Persona #6: Publishing Editors	6
3.1.7 Persona #7: Media Officers / Public Information Officers	6
3.1.8 Persona #8: Content Platform Provider	7
Appendix A: Glossary	8
Appendix B: Bibliography	10

ステークホルダーとしての図書館
の関わり方

NISOガイドライン

機会

- 研究支援への新しい動き
- ITHAKAによる調査結果
- 私学助成への文科省の動き
- OAの加速

強み

- 情報リテラシースキル
- 深層Webといった信頼できる
学術情報の提供
- リポジトリの構築と識別子の
付与

脅威

- ベンダーの寡占化による価
格操作と予算の硬直性
- 急激な為替変動

弱み(課題)

- Googleといった検索エンジンと
の差異化(2005年のOCLCの
データ)
- 教員との相互連携

外部・内部環境分析

SWOT分析を使った大学図書館を取り巻く研究支援環境